

考古学研究室関連 中央大学人文科学研究所 講演会 (参加自由)

○2016/1/5(火) 人文研公開研究会 多摩キャンパス 2号館 4階会議室 2 13:20~14:50

朱洪奎：嶺南大学校 講師、漢陽大学校 講師

「朝鮮半島の三国時代の寺院」

近年成果が上がっている朝鮮半島南部の考古学について紹介する。特に三国時代の新羅、百済の寺院遺跡の発掘調査成果をもとに、古代寺院、瓦、硬質土器と須恵器、馬具や装身具・装飾品などにみる古代日本と朝鮮半島の海を越えた交流を論ずる。

○2016/1/9(土) 人文研公開研究会 多摩キャンパス 2号館 4階会議室 2 13:00~15:00

渋谷綾子：国立歴史民俗博物館特任助教

「晩ご飯は何？デンプンから探る古代人の食生活」

内容：残存デンプン粒分析は、石器や土器などの表面や人骨の歯石、遺跡の土壌に残るデンプンの粒子を取り出して、人間がどのようにして植物を食料に変えたのか、その歴史と文化を明らかにする手法である。この研究により、野生植物の加工方法や内容、環境利用、デンプン食の評価など、現在まで明らかになってきたことについて報告する。

○2016/2/6(土) 人文研公開研究会 多摩キャンパス 2号館 4階会議室 2 13:00~17:00

「縄文草創期・早期人骨を探る」

奈良貴史：新潟医療福祉大学・医療技術学部・教授

演題「縄文時代草創期・早期人骨の形態学的特徴」

内容：従来縄文時代早期人骨は、後・晩期人骨より華奢だとされているが、その原因については諸説あり明らかではない。縄文時代人の特長を概説し、最新の知見から早期人華奢説を検討する。

米田 穰：東京大学教授

演題「縄文早期人の食生態を古人骨の同位体比から考える」

内容：縄文時代初頭の草創期から早期にかけては、環境面では更新世から完新世への急激な温暖化に相当し、文化的にも定住的な生活や弓矢を使った狩猟など新たな特徴を獲得しており、ヒトの進化と適応戦略を研究するうえで非常に興味深い。しかし、草創期の古人骨は得られておらず、その様相は明らかではない。本研究では、早期人骨における炭素・窒素同位体比から、縄文時代の適応戦略の確立を食生態から検討する。

○2016/2/27(土) 人文研公開研究会 多摩キャンパス 2号館 4階会議室 2 13:00~15:00

小倉 淳一：法政大学文学部 准教授

演題：関東地方に伝わった環濠集落-弥生時代中期後半の事例を中心に-

内容：稲作関連情報のひとつとして伝わってきた環濠集落は、弥生時代中期後半に関東地方に到達する。本発表では環濠集落の規模を中心としてその性格を検討し、周辺集落との関係を含めた展開過程を明らかにする。